

五日(寄港地)	週休(六月十八日ヨリ二十四日ニ至ル期間) 休暇代償セラレタリ
六日(海上)	週休(六月二十五日ヨリ三十日ニ至ル期間) 休暇與ヘラル
七日及八日	正味労働
九日及十日	船内勤務ニ因ル疾病ニシテ承認セラレタルモノノ爲ノ勤務ノ免除
十一日ヨリ二十七日	正味労働
二十八日	追加労働八時間ノ補償トシテノ二十四時間ノ休暇(第二十六條)
二十九日ヨリ三十一日	正味労働
八月一日ヨリ三日	正味労働
四日及五日	船内勤務ニ因ル疾病ニシテ承認セラレタルモノノ爲ノ勤務ノ免除
六日及七日	正味労働
八日	追加労働八時間ノ補償トシテノ二十四時間ノ休暇
九日(船籍港)	週休(七月一日ヨリ八日ニ至ル期間) 休暇代償セラレ
十日	下船、四ノ週休ヲ支拂フコトヲ要ス(七月九日ヨリ十六日、七月十七日ヨリ二十二日、七月二十三日ヨリ二十九日及七月三十日ヨリ八月六日ニ至ル期間)
乗船日數(六月五日ヨリ八月十日ニ至ル) 六七日	
與ヘラレ又ハ代償セラレタル週休	五日
追加労働時間補償ノ爲ノ二十四時間ノ休暇	二日
船内勤務ニ因ル疾病ニシテ承認セラレタルモノノ爲ノ勤務ノ免除	四日
控除スヘキ日數	計
殘餘	67日 - 11日 = 56日

A 海員ニ與ヘラルル週休ノ數 56 + 6 = 62
 八月十日(下船ノ日)ニ海員ニ報酬ヲ與ヘ且支拂フヘキ週
 休ノ數 62 - 6 = 56

海員カ船内ニ於テ入牢ノ規律罰ニ處セラレタル場合、正當ノ理由ナクシテ不在シタル場合又ハ自己ノ過失ニ因ル疾病ノ爲勞働不能ニ至リタル場合ニ於テハ右ノ勞働停止ハ一種ノ乗船ノ中斷ヲ構成スヘキモノニシテ週休ハ中斷ノ前後ノ期間ノ各々ニ對シ明瞭ニ計算セララルヘキモノトス

例、前記ノ例ニ於テA海員カ八月ノ四日及五日ニ於テ入牢ノ罰ニ處セラレタリトセハ(船内勤務ニ基因スル勤務免除ノ代リニ)右海員ハ八ノ週休ノ權利ヲ有スルニ過キササルヘシ(七月三十日ヨリ八月三日ニ至ル期間及八月六日ヨリ十日ニ至ル期間ハ各五日及三日ノ勞働日ヲ包含スルニ過キササルモノトス)從ツテA海員ハ八月十日ノ下船日ニ際シ〇〇〇〇ノ週休ニ對シ支拂ヲ受クルノ權利ヲ有スルニ過キス

參事院ニ附議セラレタル命令案ハ右ノ外海事法典第二十九條及第三十條ヲ其ノ儘再録シタル特別ノ二條文ヲ包含シタルカ最高會議ハ前記ノ一般的理由ノ爲確定規則ヨリ之ヲ分離スルノ必要アリト認メ次ノ如ク定メタリ

其ノ一「勞働法典第二十九條」ハ週休日ニ行ハルル凡テノ勞働ハ之カ偶然ノ事故ニ基因シタル場合及其ノ時間二時間ニ滿タサル場合ノ外週休日タルノ效果ヲ停止スル旨ヲ定ム

其ノ二「勞働法典第三十條」ハ船長ノ單獨ノ判斷ニ依ル不可抗力ノ場合及船舶、船員、旅客又ハ積荷

ノ救助ヲナス場合又ハ救援作業等ニ依リ必要トセラレタル凡テノ労働ハ週休規定ニ牴觸スルモノト看做サレシテ海員ハ船主ヨリ何等ノ補償ヲ受クルコトナクシテ之ヲ行フノ義務アルモノトスト定ム
右ノ規定ハ未タ規則中ニ挿入セラレスト雖地方海事官憲ハ船主、船長及海員ノ間ニ惹起セラルル困難ナル爭議ニシテ自己ニ提起セラレタルモノヲ解決スルニ當リ右ヲ參酌スルコトヲ得ヘシ

第二十八條 追加労働時間ノ記帳 乗組員及海事官憲ニ依ル監督

第二十八條ハ左ニ掲クル或ル修正ノ下ニ一九二〇年二月二十四日ノ命令ノ規定ヲ再録セルモノナリ

第一項 日以外ニ依ル労働組織ニ於テハ追加労働時間ハ其ノ期間(週、月、航海、季節等)ノ經過後初メテ確定スルヲ以テ追加労働時間簿ニ毎日「船長ヲシテ追加労働時間ヲ命スルニ至ラシメタル事情」ハ記載セサルモ之ニ「一日八時間以上労働時間ヲ延長シタル事情」ヲ記入スルコトヲ必要ト認め一九二〇年ノ命令第二十一條第一項ヲ修正スルコトヲ必要トシタリ

第二項 同一ノ理由ニ基キ一九二〇年ノ命令第二十一條第二項カ「右ノ労働時間カ報酬ヲ與フル場合」ト定メタルヲ改メ「右ノ労働時間カ一九二五年三月三十一日ノ命令第一條ニ依リ實施セラルル労働組織ノ方法ニ從ヒ補償又ハ報酬ノ與ヘラルヘキ場合」ナル廣汎ナル語ヲ使用スルコトトシタリ

第三項及第四項 一九二五年三月三十一日ノ命令ノ第三項及第四項ハ一九二〇年二月二十四日ノ命令ノ第三項及第四項ヲ其儘再録セリ

第五項 自動的ノ補償ト任意的ノ補償ノ兩作用アルカ爲ニ各場合ニ於テ二又ハ三ノ舷、當直若ハ組等労働組織ノ如何ナルモノニセヨ乗組各海員ハ労働時間日誌ヲ備フルコト必要トセラレタリ一九二五年ノ命令第二十八條第五項ハ此ノ點ニ關シ一九二二年ノ命令第二十一條第五項ノ規定ヲ修正セリ

第六項(新) 時間外勤務ニ關スル海事官憲ノ監督ヲ更ニ效果アラシムルカ爲ニ一九二五年三月三十一日ノ命令ノ第六項ハ追加労働時間ノ記入ハ航海監督官ニ依リ船舶ノ出港検査ノ際其ノ必要ト認ムル場合ニ於テ檢閲セラルヘキ旨ヲ定メタリ

第七項 一九二五年三月三十一日ノ命令第七項ハ一九二〇年二月二十四日ノ命令第六項ノ規定ヲ其ノ儘再録セリ(但シ爭議 litige ニ代フルニ異議 difficile ナル語ヲ以テセリ)

第二十九條 乗組員代表者ノ任命

一九二五年三月三十一日ノ命令第二十九條ハ一九二〇年二月二十四日ノ命令第二十二條ノ規定ヲ其ノ儘再録セリ

第四章 經過 規定

第三十條乃至第三十六條

第三十條乃至第三十六條ハ現ニ就航中ノ船舶カ舷及當直ノ構成並甲板、機關及事務部ノ士官及普通船

員ノ構成ニ關シ享受シ得ヘキ緩和ヲ列記セルモノニシテ之ニ對シテハ何等特別ノ説明ヲ要セサルモノト認メラル

一九〇

一九二五年三月三十一日ノ命令第三十四條ニ依リ構成セラルル聯合海事委員會ノ任命及職務ノ條件並商船ヲ主管スル大臣ニ對スル上訴ノ方法ハ一九二〇年二月二十四日ノ命令第二十三條ノ實施ヲ定メタル一九二〇年三月三十一日ノ通牒ニ依リ補足セラレタル一九二〇年三月五日ノ一般規定(經過規定)ニ準據シ定メラルヘシ

一九二五年三月三十一日ノ命令ハ今日以後就航スル船舶ニ對シテハ其ノ公布後十日(即チ一九二五年四月十日)ヲ經テ又現在建造中ノ船舶ニ對シテハ本令公布ノ日ヨリ六ヶ月(一九二五年十月二日)ヲ經テ適用セラルヘシ一九二五年四月一日ノ通牒ハ本年四月一日ヨリ十日ニ至ル期間ニ於テ發航シタル船舶ノ艤裝ノ爲船主及船長ニ依リ遵守セラルヘキ規定ヲ既ニ貴下ニ示シタリ

余ハ最後ニ一九二五年三月三十一日ノ命令ハ漁船内ノ勞働組織ニ關スル規定ヲ除キ一九二〇年二月二十四日及一九二二年九月五日ノ命令ヲ廢止スルコトヲ貴下ニ告知セントス然レトモ一九二二年九月五日ノ命令第十條(第二項)ノ規定ト漁船内ノ指揮ヲ規定セル一九二四年七月二十日ノ命令第十九條、第二十條及第二十三條ノ規定ヲ合致セシムルカ爲ニ漁船内ノ當直主任タル一等機關士カ免狀ヲ受有スヘキコトトナル最低限ノ機關馬力ヲ五百馬力ヨリ七百馬力ニ引上ケタリ

一九二〇年三月五日ノ通牒ノ最後ノ項及一九二二年九月十五日ノ通牒(第十二條)カ既ニ示シタルカ如ク必要ナル場合引用シ且船内勞働組織ノ新條件ニ關シ正確ニ乗組員ニ説明スルカ爲ニ船長ニ對シ一九二五年三月三十一日ノ命令原文ノ所持ヲ勸告スルコト必要ナルヘシ

右ハ一九二五年三月三十一日ノ命令ノ要求ニ關スル詳細ノ各種ノ説明ナリ

新規則ノ實施ニ付テハ好意的注意ヲ拂ヒ且登録區ノ長及海上監督官ハ出來得ル限り寛大ナル精神ヲ以テ本令ノ適用ニ當リ船舶、乗組員又ハ積荷ノ安全上絶對的必要事項以外ノ凡ユル金錢上ノ負擔ニシテ外國ノ船主カ其ノ國內法ニ依リ課セラレサルモノヲ船主ニ對シ課セサル様留意スルハ余ノ希望スル所ナリ
監督官ハ航海艤ヲ構成スル普通船員ノ定員ヲ定ムル一九二五年三月三十一日ノ命令第十一條(第二項及第三項)所定ノ各要素ヲ判斷スルニヨリ且特ニ前記第十一條第二項所定ノ狀況ニ於テ當該勤務ノ定員ヲ二人(三人ノ代ハリニ)ヲ以テ構成スルコトヲ許サレ得ヘキ帆船及國際貿易ニ從事スル貨物船ニ關シテハ最モ寛大ナル妥協的精神ヲ示スノ要アルヘシ

一九二五年三月三十一日ノ命令第三十四條ニ依リ創設セラレタル聯合海事委員會ハ船員室ノ凡ユル變更カ新設備ノ設置又ハ船舶ノ商業的利用容積ノ減少ニ依リ船主ニ甚シキ負擔ヲ課スル財政上ノ影響ヲ自然ニ及ホスヘキ就航中ノ船舶ニ付要求セラレ得ヘキ免除ノ許可ニ關シ出來得ル限り寛大ニ振舞フコト同様必要ナルヘシ

一九一

他ノ見地ニ於テ地方海事官憲及海事登録所長ハ新命令ノ適用ヨリ生シ得ヘキ各性質ノ結果ニ十分通曉スルコトヲ要スヘシ

發生シタル特ニ重大ナル事件ニシテ遲滯ナク余ニ告知セラルヘキモノノ外航海監督官ハ新シキ告知アル迄特ニ出港臨檢ノ際船内勞働組織ノ態様ニ關シ商船ノ運用ニ於テ行ハレタル變更(例ヘハ月、航海、季節等ノ態様ヲ凡テノ大航海會社ノ現ニ採用セル日ノ態様ニ代ヘルコト)舷又ハ當直ノ構成、甲板部、機關部及事務部ノ士官及普通船員ノ定員ノ構成、追加勞働時間、週休等ニ關スル特別取極ノ爲船主ト乗組員(又ハ船主若ハ關係海員ノ團體)ノ間ニ成立セル協定竝新規定ノ適用カ現ニ乗組員ニ支給シタル給料及各種ノ手當ニ及ホシ得ヘキ反響等ヲ注意スルノ要アルヘシ

簡單ナルモ明瞭ニシテ且正確ニ作成セラレタル監督官ノ蒐集セル情報ハ毎月十日ニ當省ニ到着スル様發送セラルヘク之ト同時ニ一九二五年一月三十一日及三月二十日ノ通牒ノ實施ニ依リ外國船ニ付供給スヘキ情報モ亦發送セラルヘキモノトス右ハ監督官ノ觀察ヲ一般の意見ニ取纏メ且特ニ新シク採用シタル規則ノ適用ニ基因シ得ヘキ登録區ノ船主ノ地位ノ低下ヲ示シタル海事登録官ノ總括的報告ヲ伴フヘシ

本訓令ヲ補足スルカ爲ニ余ハ最近ノ機會ニ於テ一九二五年三月三十一日ノ命令所定ノ各型船舶ノ各々ニ付各種船舶及乗組員ノ各々ニ特ニ適用セラルヘキ勞働法制及定員ノ主要ナル規定就中次ノ事項ヲ規定

スルモノヲ明瞭ナル一覽表ニ調製スヘシ

- 一 通常又ハ追加勞働ニ付船員ニ要求スヘキ正味勞働時間ノ最長限及最短限
- 二 舷及當直ノ構成
- 三 甲板部員及機關部員ノ定員ノ構成
- 四 前記二及三ノ各點ニ關シ現ニ就航中ノ船舶ノ享受シ得ヘキ經過的處置之ヲ要スルニ余ハ更ニ切ニ地方海事官憲ニ對シ其ノ階級ノ如何ヲ問ハス望ム所ハ一九二五年三月三十一日ノ命令カ——右ハ參事院ニ於テ全會一致ヲ以テ採用セラレタルモノナリ(此ノ點ハ如何ニ強調スルモ過分ニ非サルヘシ)——政府及最高會議ニ依リ目途トセラレタル目的ニ正確ニ合致シ且船主ノ利益、航海ノ安全及乗組員ノ健康ト兩立シ得ヘキ凡ユル範圍ニ於テ職業的一般和合ト社會的進步ノ產物タル様何事モ忽諸ニセサランコトナリ

6710
14

寄贈
12.4.10
圖書館

昭和四年三月二十五日印刷
昭和四年四月一日發行

遞信省管船局

印刷者 佐脇亮三郎
東京市芝區愛宕町三丁目一番地

中國書法雜誌 第三卷

南京中華書局發行 三十二年一月一日

總發行所

中華民國三十三年一月一日



